感染予防対策もありカーテン需要はますます高まりそう

カーテンといっても単に日差しを遮るもののほか、夜行バスでは各シートを仕切るためのカーテンも採用されている。また、新型コロナウイルス感染予防の観点から、2名がけシートの中央部に間仕切り用にカーテンを設ける事業者も目立っており、注目度は高まっている

左右別の色で織ることで2名掛けシートを独り占めしないように工夫されている（三重交通）

3列シート車両にプライベートカーテンが施されている。上部を網目などにすることで、乗客の健康状態の確認などが行えるようになっている（庄内交通）

サイドウインドウだけでなく、リアウインドウにもスワッグバランスのカーテンを施工している。夜間にはシャンデリアなどの照明により、さらにゴージャスに見える（東関交通）

新型コロナウイルス感染予防として注目されているのが、2名シートでの仕切りカーテン（みちのりホールディングスグループの岩手県北自動車）

左右の後部2列を回転可能として、サロンテーブルを置いた状態。根強いニーズがあるようだ（東関交通）

市岡ではシート表皮に、撥水・抗菌加工も可能としている。今後ニーズが高まるかもしれない

てなくなることがないので、メンテナンスを施さなくても長期間効果の持続ができます」（市橋氏）。すでに夜行バスの事業者などでの導入実績があるとのこと。新型コロナウイルス感染拡大以降は、バスの生産が滞っているので、バスの生産が再開されると、注目度が急上昇していくかもしれない。

新型コロナウイルス対策として、各客席向けの飛沫感染防止用のシールドもすでにラインナップし、好評を博している。「一部車種は除きますが、客席シートバック後ろのグリップのビスを使って装着します。お得意様（バス事業者）より問い合わせがあり取り扱いを始めました」（市橋氏）。運転席を覆う感染防止のためのビニールシートカバーもラインナップしているが、これはもともとマイクロバスのシート全体を覆うビニールを製造していたので、そのノウハウが生かされているとのこと。また、いまでは乗客に乗車時に手指の消毒を実施してもらっているが、消毒液の入ったボトルを手持ちする必要のないホルダーの製品化も行っている。

新型コロナウイルス対策関連だけでなく、それ以前から床に貼る注意書きシートや社名入りマットなどについても、お得意様であるバス事業者からのニーズを聞き、製品化することで扱い商品を増やしていく、その機動性の高さがとても印象的であった。

現場の声が新製品開発へのヒントを与え商品化へ導く

バス事業者からの要望もあり、客席グリップのビスを使い装着できるシールドは、はとバスが開発したものを市岡が販売している（写真ははとバス車内）

ガイドなどが、ドアの前で消毒液を持って待っている手間を省く、消毒ボトルホルダー

顧客との長い取り引きで築き上げた信頼関係から、「こんなのあったらいいなあ」という相談はよく受けるとのこと。そのような“現場の声”を参考にしながら、利便性の高い新商品を開発している。フットワークが軽いからこそ、現場の声も多く聞くことができるのだろう

乗客が入口で自分の席を探しやすいように、座席番号表を市岡は大きくした

観光バス入口のステップに敷くマットには社名などが入れられる（オー・ティー・ビー）

最後部席センター部に座っていて、急ブレーキで前方に投げ出されないように、写真のように置き、座れないようにできるボックスも市岡は開発している

車内で紙コップに入った飲み物などを振舞う“おかもち”。コップが倒れにくいように、穴のストロークも研究しつくされている

バスの床に貼るさまざまな注意書きの書かれたシールも、事業者から引き合いがあった

シート生地のプリント技術を応用したネクタイ。各事業者のドライバー向けネクタイとして人気が高い商品